



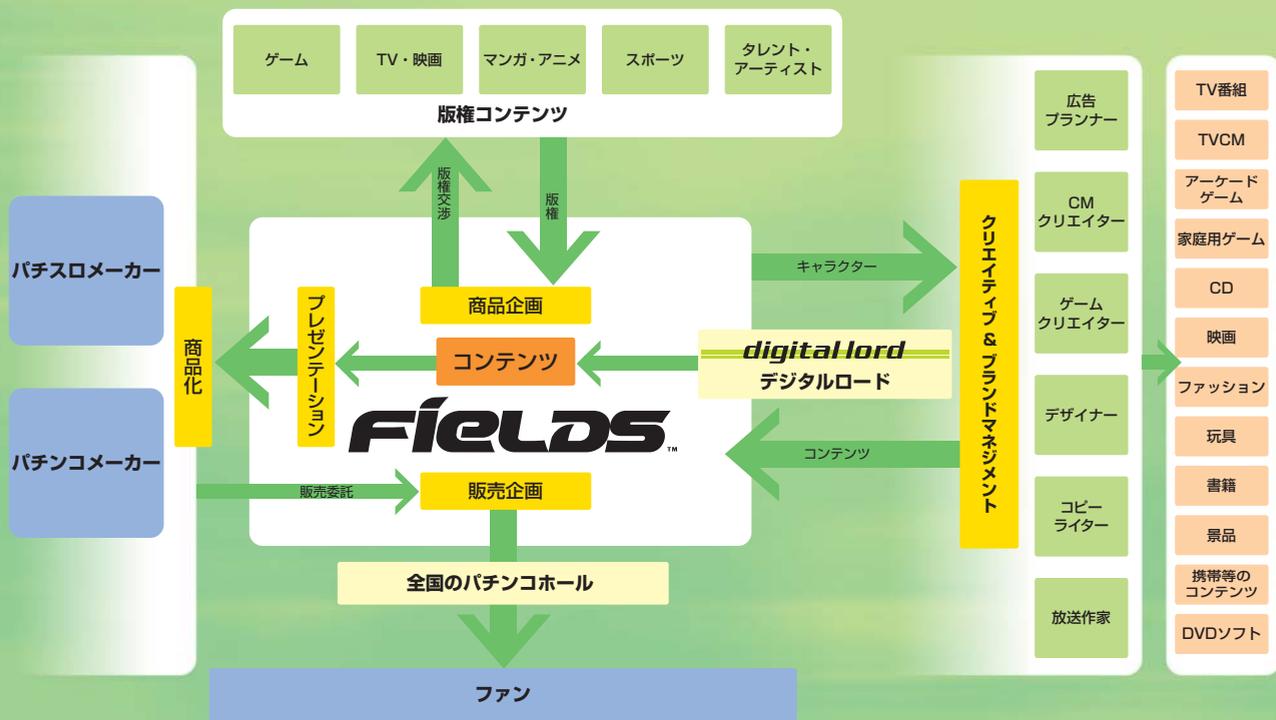
# Fields™

Gaming and Entertainment

2004年3月期 中間事業報告書:2003年4月1日~2003年9月30日



The Greatest Leisure For All People.



## 新しいエンタテインメントの創造へ

「すべての人に最高の余暇を」という企業理念のもと、

フィールズはパチンコ・パチスロを核とする遊技市場において新たなエンタテインメントの創造をめざしています。

有力コンテンツを獲得し開発・提案する体制を整え、

より多くの人々が楽しめる魅力的な遊技機やホール空間づくりを推進しています。

# FIELDS™

## 次代を見据え、 収益拡大への基盤づくりに 取り組んでいます。

代表取締役社長 山本英俊



株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに2004年3月期中間事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

近年、遊技機市場では顧客ニーズを反映し、ディスプレイの液晶化を原動力として遊技機のゲーム性が高まりつつあります。また、これに伴いコンテンツの重要性が増しています。

当社はこうした市場動向を見据え、かねてからコンテンツを重視した事業戦略を推進してまいりました。具体的には、①当社が保有するコンテンツを最大限活用できる業務提携を軸にしたメーカーとの協業、②著作権獲得などを通じたコンテンツ開発の一層の強化、③独自コンテンツの開発による新たな市場への業容の拡大、の3点を戦略の中心としてさまざまな施策を進めております。

その一環として、当期はメーカーとの協業に関して、サミー株式会社の子会社である株式会社ロデオとの協業に加え、パチンコ遊技機の最大手メーカーである株式会社SANKYOとの間で、同子会社である株式会社ダイダーのパチンコ遊技機および回胴式遊技機について、企画参画・コンテンツ提供を前提とする独占販売契約を締結いたしました。今後も、コンテンツの強化および独自コンテンツの開発とあわせてこれらの戦略に基づいた事業を展開してまいります。また、営業社員を中心とする人材の量的・質的拡大、全国拠点における研修設備やショールーム機能の拡充など、積極的な事業展開を支える経営基盤の強化にも努めます。

なお当社は、株式の流動性を高める目的で2003年11月20日をもって1株を5株に株式分割いたしました。投資単位を引き下げることで多くの投資家の参画を得、株式市場において適正な株価を保ちながら、株主重視を基本方針として利益に応じた適正な配当を実施してまいります。

今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# フィールズが拓く、新たなエンタテインメントの可能性。

フィールズはパチンコ・パチスロ産業のさらなる変革を推進すべく、新たな取り組みを進めています。

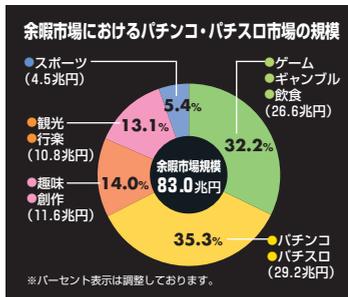
ここでは当社社長、山本へのインタビューを通じて、フィールズの強みと今後の展望、戦略についてご紹介します。

## 販売シェア拡大を通じて、 新たな事業展開の基盤強化へ

今日、パチンコ・パチスロは日本の代表的な娯楽として全国に浸透しています。市場規模は余暇市場の30%以上を占める29.2兆円に達し、参加人口も(近年は横這い傾向にあるとはいえ、国内総人口の15%強にあたる)約2,100万人にのびります。

全国至るところに存在する約16,800店のパチンコホールを、地域のより多くの人々に喜びと楽しみを提供する場として発展させていくことが、今後のテーマです。パチンコ・パチスロの参加可能人口は約9,000万人※と、地域に密着した娯楽産業としてのポテンシャルは非常に高いと考えています。

こうした市場のなかで当社は、遊技機の流通商社として独自の地位を確立してきました。業界で初めて全メーカーの機種を取り扱い、従来は特定メーカーの機種しか設置していなかったパチンコホールに対して、さまざまな機種



※出典：(財)社会経済生産性本部「レジャー白書2003」

を最適に組み合わせる提案する新たな流通形態を確立したのです。蓄積したマーケティングデータと、全国27拠点・350名体制を誇る支店ネットワークを駆使したコンサルティング営業は、各ホールにおけるお客様のニーズや志向に応じた機種構成を可能とし、パチンコファンの拡大に貢献しました。遊技機メーカーにも人気機種をより多くのホールに拡販できるというメリットをもたらし、これらの成果によって当社は全国のパチンコホールや遊技機メーカーと緊密な信頼関係を築いています。

現在、当社は全メーカーとパチンコホールを結ぶNo.1流通商社として、顧客動向から最新の技術動向まで市場のあらゆる情報を

集約できる立場にあります。これを強みとして、近年では全国で収集した営業情報をもとに、大手メーカーと提携した遊技機の企画開発にも力を注いでいます。ファンのニーズに応える遊技機の提供を通じて市場における販売シェアをさらに拡大し、業界での存在価値をさらに高めることで、ホール全体の新しいあり方を提案していくための基盤



※出典：参加人口 (財)社会経済生産性本部「レジャー白書2003」  
設置台数 警察庁調べ



を確立していく考えです。今後、遊技機メーカーやパチンコホールと密に協力し、射幸性を求める人々だけでなく、地域のさまざまな人に楽しんでいただける新たなエンタテインメントを創造していきます。

### 市場の参加人口拡大に向けて、 よりゲーム性の高いマシンを提案

遊技機の企画開発において、当社は固定ファンだけでなく老若男女誰もが楽しめるよう、射幸性のみに依存せずゲーム性、エンタテインメント性に優れた遊技機の実現をめざしています。これにより参加人口を拡大し、市場にさらなる活況をもたらしていきたいと考えています。

そこで注力しているのが、有力なコンテンツの導入です。TVゲームや映画、アニメ、漫画など、パチンコの勝ち負けを離れて楽しめるコンテンツを採り入れた遊技機をホールに提供することで、ファンを増やしていくことができます。幸い、ハードウェアの進化によって遊技機にも大型の液晶画面を搭載できるようになり、デジタルコンテンツの演出も容易になりました。このメリットを最大限に活用し、すでに数々のヒット機種を送り出しており、新たなファンの獲得と市場の活性化に努めています。

この成功に大きく貢献しているのが、グループ各社と連携した強力なコンテンツ開発体制です。当社は世界的な有名タレントやキャラクターなどの有力コンテンツの獲得に努めるとともに、業界内の開発ノウハウだけに頼るので

はなく、エンタテインメントに関して優れた感性と高度な技術をもつ外部のクリエイターを活用してコンテンツを開発する体制を確立しています。この体制をもとに、3Dグラフィックスやリアルアクションゲームなどに慣れ親しんだ若年層も含め、多くの人々にとって魅力的なコンテンツを実現し、市場の参加人口を拡大していきます。

### 遊技機メーカーと連携したコンテンツプロバイダーへ、 さらに総合プロデュース企業へ

このように当社は、流通商社としての枠にとどまらず、新たなエンタテインメントを遊技市場にもたらすコンテンツプロバイダーとして成長を遂げつつあります。今後、獲得・開発したコンテンツは、パチンコ・パチスロ市場に導入していくほか、各種ゲームやDVD、携帯電話などさまざまな分野に展開していく考えです。また、約6,000億円の規模をもつ景品市場への進出も視野に入れ、コンテンツを活用したエンタテインメント性の高い景品の提案にも注力していきます。これら多面的なアプローチを通じて、当社はホール全体の魅力的な空間づくりをもサポートしていきたいと考えています。

これまでにも、パチンコホールでは市場動向に応じて数年サイクルで店舗改装を行い、集客拡大に努めてきました。



しかし、各ホール単独の取り組みではどうしても企画開発・実行力や投資額の面で限界があるうえ、従来の発想で射幸性を重視した空間づくりに偏りがちになります。それを当社がサポートすることで、誰もが楽しく快適な気分になれる、ホール内のあちこちを見ているだけでも楽しみがある…そんなエンタテインメント性に富んだホールプロデュースを実践しています。その実現に向けて、全国の支店で新しい遊技機を紹介するショールーム機能を拡充しているほか、建築家によるホールデザインコンペティションの開催など、専門技術者との情報交流も図っています。

顧客ホールは将来、パチンコ・パチスロはもとより、他のゲームやムービーでも楽しめる、あるいは家族で人気アニメのパチンコゲームをして、当たればそのアニメキャラクターの景品がもらえるなど、さまざまな楽しみを提供する場として発展していく可能性を秘めています。当社はその流れを牽引すべく、地域ごとの人々のニーズを捉え、より多くのファン層を獲得していくことで、「すべての人に最高の余暇を」という企業理念を具現化していきたいと考えています。今後の当社の活動にぜひ、ご注目ください。



## 世界初! 3Dバーチャルゲームがパチスロに。

2003年8月、3Dバーチャルゲームの要素を採り入れた「ジェットセットラジオ」を発売しました(製造:ロデオ)。最先端のCGアニメーション技術であるトゥーンシェイドを搭載した新世代マシンで、近未来シブヤを舞台に主人公たちが臨場感あふれるアクションを展開します。若者層が共感し、新たなゲーム感覚を満喫できる世界をパチスロマシンに盛り込むことで、全国4,000万人のTVゲームファンをターゲットに集客拡大を狙います。



新機種「ジェットセットラジオ」  
©SEGA ©SEGA/Smilebit



## 1980年代に一世を風靡したコミック キャラクターを投入!

2003年10月、「週刊少年ジャンプ」黄金期の一角を担い、TVアニメ化もされた伝説のコミック「シティーハンター」をCR機に採用しました(製造:サミー)。主人公の辣腕スーパードール・冴羽リョウと仲間たちが繰り広げるドラマをモチーフに、充実した液晶アクションと、銃やハンターズコープなどのアイテムでコミックの世界を演出します。往年のファンに、懐かしいヒーローとの再会を楽しんでいただくことができます。



「CRシティーハンターシリーズ」  
©北条司 ©Sammy

## タレント版新機種を発表、記者会見も盛況。

2003年6月、梅宮辰夫&松方弘樹のプロデュースによるパチンコ新機種「CR極上! 梅松パラダイス」を発売しました(製造:サミー)。遊びの達人を自負する銀幕のスター2人がタッグを組み、ゴージャスカッコミカルな最高級の悦楽マシンが実現、ビギナーから上級者までが自分流に楽しめます。6月26日には東京・六本木「グランドハイアット東京」にて盛大な発表記者会見を開催、約200人の報道関係者が詰めかける盛況となりました。



「CR極上! 梅松パラダイス」  
©NP/GD/PKL ©PC/BP ©Sammy 2003

## 2003年8月、当社株式が「J-Stock銘柄」に選定されました。

2003年8月、フィールズ株式がジャスダック市場において「J-Stock銘柄」に選定されました。J-Stock銘柄とは、ジャスダック上場銘柄のうち、一定基準を満たした銘柄で毎年4回選定されます。

※J-Stock銘柄の選定基準は、ジャスダック上場企業で①株式数が4,000単元以上、②時価総額が選定日の月から3カ月遡った1カ月間の平均時価総額が300億円以上600億円未満で、過去1年間の経常利益が10億円以上、③株主資本(純資産)が負でないこと、などです。

# 新しいエンタ 創造に向け

遊技市場の拡大に向けた事業戦略の一環として、当社は国内外の有力コンテンツに着目しています。グループ会社と

## マネジメント契約の拡大

グループ会社が連携し、有力コンテンツの版權獲得と育成に注力。

時代の変化に即した集客力の高い遊技機の開発に向けて、各種有力コンテンツの版權獲得に力を注いでいます。グループ会社であるプロフェッショナル・マネージメント(株)、トータル・ワークアウト(株)、ホワイトトランシュチャームズジャパン(株)などとの緊密なコラボレーションにより、各分野のトップアスリートたちとのマネージメント契約を推進し、優良なコンテンツとなり得る資産を蓄積していきます。また、次代を担うタレント、アーティストの養成をめざすCASTの企画運営にも積極的に取り組んでいます。

こうした組織力とさまざまなネットワークを活用した活動により、遊技市場における魅力的なコンテンツの登場を実現していきます。

優良  
コンテンツの獲得

white  
trush  
charms



Professional Management

Fie

TOTAL Workout



### ■プロフェッショナル・マネージメント(株)

芸能・スポーツなどの分野で活躍する方々のプロモーション活動をマネージメントしています。とくに日本ではまだ確立されていないスポーツマネージメントに注力しており、これまでにプロ野球の清原和博選手、サッカーの安貞桓選手といった有名アスリートと契約を結んでいます。



### ■ホワイトトランシュチャームズジャパン(株)

マドンナ、ジェニファー・ロペスなどのミュージシャンやスタイリストたちに愛されるアクセサリメーカーです。米国から世界へと拡大しているブランド力をさらに高めながら、景品市場への展開も視野に入れています。

TOTAL Workout

### ■トータル・ワークアウト(株)

多くのアスリートやタレントの身体づくりを通じて、その能力と魅力向上をサポートするフィットネスジムです。清原和博選手や千代大海関などのパーソナルトレーナーとして知られるケビン山崎が代表を務めており、プロフェッショナル・マネージメント社と連携しての版權獲得にも貢献しています。



新たなエンタテ

# テインメント た2つの視点

連携してコンテンツの獲得を推進するとともに、優れたクリエイターによるコンテンツの開発、展開を進めています。

*digital lord*  
**LDS™**  
糸井重里

優秀なクリエイター・  
プロデューサーを結集

テインメントの創造

## *digital lord*

### ■ (株) デジタルロード

パチンコ・パチスロ用をはじめとする映像ソフトの企画開発、各種キャラクターのマーチャンダイジングビジネスの企画立案、ブランドマネージメントを手がけています。社長に就任した川口孝司氏は、任天堂ではエグゼクティブ・プロデューサーを務め、「ポケモン」を世に送り出した実績を残しています。



代表取締役 川口孝司



### フィールズ(株)社外取締役 糸井重里

クリエイティブ界に大きな影響力をもつコピーライターであり、2001年に当社社外取締役に就任。同氏が経営する東京糸井重里事務所を通じて、当社は国内外の気鋭の優れたクリエイターと強力なネットワークを築いています。

著名人や人気キャラクターなどの魅力を最大限に引き出すためには、戦略的なマーチャンダイジング戦略と、優れたゲームコンテンツなどのクリエイティブデザインが不可欠です。当社では2003年1月にクリエイティブ・マネージメントを担うグループ会社として(株)デジタルロードを設立、ゲーム業界に多大な実績をもつ川口孝司氏を社長に迎えて国内外の広告プランナー、ゲームデザイナーなどのクリエイターたちとのパートナーシップを築いています。また同社は、当社社外取締役である糸井重里氏の事務所とも密に連携し、優れた才能の結集に努めます。この陣容のもと、コンテンツ開発やマーチャンダイジング戦略を進め、遊技機にとどまらず家庭用ゲーム機やDVD、携帯電話、各種グッズなどへの展開を図っていきます。誰もが知っている有名タレントが意外な組み合わせで登場し、テレビで見るとは違う魅力を発揮する…そんなコンテンツの開発に力を注いでいます。

## マーチャンダイジング力の強化

優れた才能を結集し、クリエイティブ力とプロデュース力を発揮。

## 経営成績

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、株式市場の好転、企業の合理化策などにより一部の企業を中心に業績の回復は見られましたが、厳しい雇用情勢、所得環境の悪化などによる個人消費の低迷などにより、引き続き低調な推移となりました。

このような状況のなか、パチンコ・パチスロの参加人口は前年(平成14年)の約1,930万人から約2,170万人へと2,000万人の大台を回復(財団法人社会経済生産性本部の調査による)し、近年の減少傾向に底を打った感があります。こうしたファン層の拡大傾向の背景には、液晶の大型化や高品位化、またグラフィック用ICの高性能化や処理技術の向上、さらには遊技機への各種キャラクター採用の本格化などにより、パチンコ・パチスロが単なる

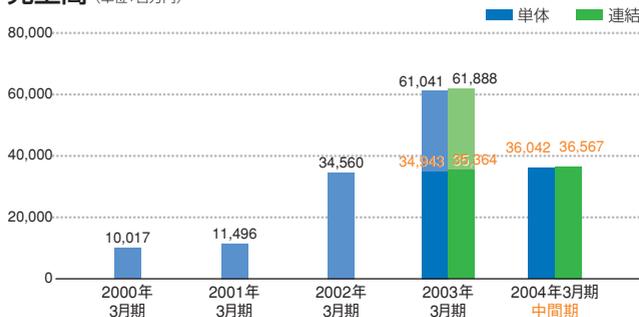
ギャンブルからエンタテインメントへと変貌を遂げる前兆が原動力として存在していると考えられます。

以上のような経営環境のもと、当社のパチスロ販売においては、前期から引き続き販売した映画タイアップ「旋風の用心棒」、本宮ひろ志氏のキャラクターを採用した「スロッター金太郎」、株式会社セガのヒットゲームをリメイクした「ジェットセットラジオ」など、株式会社ロデオのキャラクター採用機が順調に推移し、当中間連結会計期間の増収増益に大きく寄与しました。

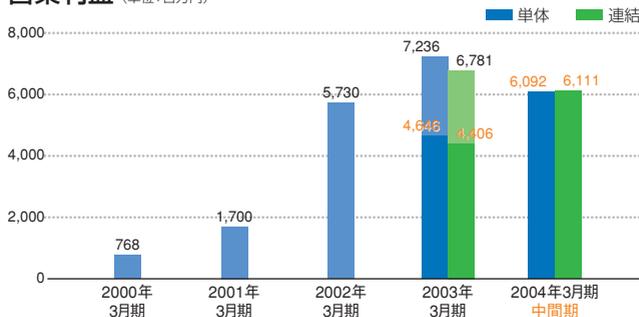
一方、パチンコ販売においては、梅宮辰夫氏と松方弘樹氏をキャラクターに採用した「CR極上!梅松パラダイス」が好調に推移し、増収増益に大きく寄与しました。

## 財務ハイライト

### 売上高 (単位:百万円)



### 営業利益 (単位:百万円)



#### <当中間決算結果についての注記>

##### 売上高と営業利益の増加率について:

当中間期において、売上高は前年同期比3.4%増に留まる一方、営業利益は同38.7%増となりました。この増加率の差は、遊技機販売価額がそのまま売上に反映されるパチスロの代理店販売台数が前年同期比11%増だったのに対して、販売手数料のみが売上に計上される代行店販売台数がパチスロで同67%増、パチンコで同20%と大幅に増加したことによるものです。

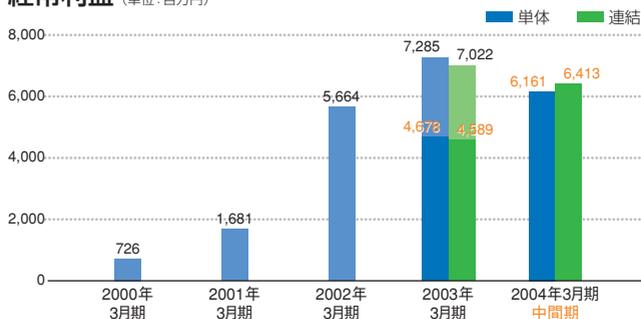
これらの結果、当中間連結決算では、売上高36,567百万円（前年同期比3.4%増加）、営業利益は6,111百万円（同38.7%増加）、経常利益6,413百万円（同39.8%増加）、中間連結純利益3,523百万円（同54.7%増加）を計上することができました。

## 通期の見通し

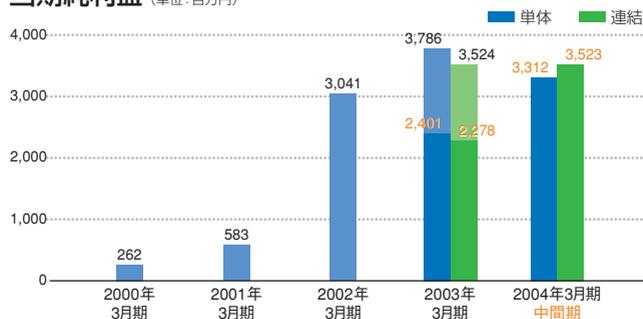
平成15年10月10日に、警察庁より射幸性を適度な枠内に収めることを趣旨とした国家公安委員会規則の改正が示唆されましたが、施行は平成16年7月に予定されています。したがって、法規改正などの外部要因が当社の当期業績に与える影響は、財団法人保安電子通信技術協会（保通協）型式試験の遅れによる販売時期のずれ込み等により、下期の販売予定台数のうち、ロデオ社

の2機種について販売台数減を予定いたしました。しかしながら、本年11月17日に株式会社ダイドー社との間での業務提携に伴う販売台数増を精査いたしました結果、平成16年3月期の連結業績予想は、期初計画を上回り、売上高75,164百万円（前連結会計年度比21.4%増加）、経常利益12,209百万円（前連結会計年度比73.8%増加）、当期純利益6,776百万円（前連結会計年度比92.2%増加）を計画しております。

## 経常利益 (単位:百万円)



## 当期純利益 (単位:百万円)



中間連結貸借対照表

(単位:千円)

| 科目                | 当中間連結会計<br>期間末<br>2003年9月30日現在 | 前中間連結会計<br>期間末<br>2002年9月30日現在 | 前連結会計<br>年度末<br>2003年3月31日現在 |
|-------------------|--------------------------------|--------------------------------|------------------------------|
| <b>資産の部</b>       |                                |                                |                              |
| <b>I 流動資産</b>     |                                |                                |                              |
| 現金及び預金            | 6,815,269                      | 6,230,078                      | 5,739,061                    |
| 受取手形及び売掛金         | 6,768,242                      | 2,752,730                      | 4,379,791                    |
| たな卸資産             | 189,416                        | 256,943                        | 260,261                      |
| 繰延税金資産            | 254,239                        | 217,724                        | 268,667                      |
| その他               | 1,910,705                      | 899,008                        | 1,367,368                    |
| 貸倒引当金             | △26,351                        | △18,100                        | △38,378                      |
| <b>流動資産合計</b>     | <b>15,911,521</b>              | <b>10,338,386</b>              | <b>11,976,772</b>            |
| <b>II 固定資産</b>    |                                |                                |                              |
| 1.有形固定資産          | 2,304,858                      | 1,019,960                      | 1,892,814                    |
| 2.無形固定資産          | 222,546                        | 135,440                        | 163,074                      |
| 3.投資その他の資産        |                                |                                |                              |
| 投資有価証券            | 1,693,827                      | 1,047,635                      | 1,096,809                    |
| 敷金保証金             | 1,188,092                      | 930,734                        | 1,198,017                    |
| 繰延税金資産            | 294,424                        | 219,049                        | 240,596                      |
| その他               | 642,498                        | 967,525                        | 598,653                      |
| 貸倒引当金             | △72,446                        | △101,863                       | △76,301                      |
| <b>投資その他の資産合計</b> | <b>3,746,397</b>               | <b>3,063,083</b>               | <b>3,057,775</b>             |
| <b>固定資産合計</b>     | <b>6,273,802</b>               | <b>4,218,484</b>               | <b>5,113,663</b>             |
| <b>資産合計</b>       | <b>22,185,323</b>              | <b>14,556,870</b>              | <b>17,090,435</b>            |

(単位:千円)

| 科目                     | 当中間連結会計<br>期間末<br>2003年9月30日現在 | 前中間連結会計<br>期間末<br>2002年9月30日現在 | 前連結会計<br>年度末<br>2003年3月31日現在 |
|------------------------|--------------------------------|--------------------------------|------------------------------|
| <b>負債の部</b>            |                                |                                |                              |
| <b>I 流動負債</b>          |                                |                                |                              |
| 買掛金                    | 3,669,386                      | 991,580                        | 2,746,670                    |
| 未払法人税等                 | 2,937,348                      | 2,412,252                      | 2,605,440                    |
| 賞与引当金                  | 19,000                         | 18,300                         | 18,000                       |
| その他                    | 1,689,085                      | 3,221,830                      | 1,352,405                    |
| <b>流動負債合計</b>          | <b>8,314,820</b>               | <b>6,643,964</b>               | <b>6,722,516</b>             |
| <b>II 固定負債</b>         |                                |                                |                              |
| 退職給付引当金                | 114,823                        | 98,733                         | 105,998                      |
| 役員退職慰労引当金              | 670,900                        | 540,900                        | 569,000                      |
| 預り保証金                  | 1,087,034                      | 810,629                        | 863,808                      |
| 連結調整勘定                 | 2,342                          | 3,824                          | 3,083                        |
| その他                    | 65,477                         | 610,085                        | 73,231                       |
| <b>固定負債合計</b>          | <b>1,940,578</b>               | <b>2,064,173</b>               | <b>1,615,121</b>             |
| <b>負債合計</b>            | <b>10,255,399</b>              | <b>8,708,137</b>               | <b>8,337,637</b>             |
| <b>少数株主持分</b>          |                                |                                |                              |
| 少数株主持分                 | 2,591                          | 6,994                          | —                            |
| <b>資本の部</b>            |                                |                                |                              |
| <b>I 資本金</b>           | <b>1,295,500</b>               | <b>530,500</b>                 | <b>1,295,500</b>             |
| <b>II 資本剰余金</b>        | <b>1,342,429</b>               | <b>415,429</b>                 | <b>1,342,429</b>             |
| <b>III 利益剰余金</b>       | <b>9,184,115</b>               | <b>4,814,435</b>               | <b>6,060,735</b>             |
| <b>IV その他有価証券評価差額金</b> | <b>105,287</b>                 | <b>81,374</b>                  | <b>54,133</b>                |
| <b>資本合計</b>            | <b>11,927,332</b>              | <b>5,841,738</b>               | <b>8,752,797</b>             |
| <b>負債、少数株主持分及び資本合計</b> | <b>22,185,323</b>              | <b>14,556,870</b>              | <b>17,090,435</b>            |

## 中間連結損益計算書

(単位:千円)

| 科目              | 当中間連結会計期間<br>自2003年4月1日<br>至2003年9月30日 | 前中間連結会計期間<br>自2002年4月1日<br>至2002年9月30日 | 前連結会計年度<br>自2002年4月1日<br>至2003年3月31日 |
|-----------------|--|--|--------------------------------------|
| I 売上高           | 36,567,055                             | 35,364,842                             | 61,888,832                           |
| II 売上原価         | 26,059,047                             | 26,447,076                             | 45,895,906                           |
| 売上総利益           | 10,508,008                             | 8,917,765                              | 15,992,925                           |
| III 販売費及び一般管理費  | 4,396,450                              | 4,511,497                              | 9,211,728                            |
| 営業利益            | 6,111,557                              | 4,406,268                              | 6,781,196                            |
| IV 営業外収益        | 311,091                                | 224,543                                | 329,558                              |
| V 営業外費用         | 8,853                                  | 41,724                                 | 88,706                               |
| 経常利益            | 6,413,795                              | 4,589,086                              | 7,022,048                            |
| VI 特別利益         | 10,584                                 | 73,947                                 | 248,201                              |
| VII 特別損失        | 61,386                                 | 31,471                                 | 121,894                              |
| 税金等調整前中間(当期)純利益 | 6,362,994                              | 4,631,562                              | 7,148,355                            |
| 法人税、住民税及び事業税    | 2,911,242                              | 2,421,621                              | 3,749,518                            |
| 法人税等調整額         | △74,219                                | △75,124                                | △125,535                             |
| 少数株主利益          | 2,591                                  | 6,994                                  | —                                    |
| 中間(当期)純利益       | 3,523,380                              | 2,278,072                              | 3,524,372                            |

## 中間連結剰余金計算書

(単位:千円)

| 科目                  | 当中間連結会計期間<br>自2003年4月1日<br>至2003年9月30日 | 前中間連結会計期間<br>自2002年4月1日<br>至2002年9月30日 | 前連結会計年度<br>自2002年4月1日<br>至2003年3月31日 |
|---------------------|--|--|--------------------------------------|
| <b>資本剰余金の部</b>      |  |  |                                      |
| I 資本剰余金期首残高         | 1,342,429                              | 415,429                                | 415,429                              |
| II 資本剰余金増加高         | —                                      | —                                      | 927,000                              |
| III 資本剰余金中間期末(期末)残高 | 1,342,429                              | 415,429                                | 1,342,429                            |
| <b>利益剰余金の部</b>      |  |  |                                      |
| I 利益剰余金期首残高         | 6,060,735                              | 2,826,872                              | 2,826,872                            |
| II 利益剰余金増加高         | 3,523,380                              | 2,278,072                              | 3,524,372                            |
| III 利益剰余金減少高        | 400,000                                | 290,509                                | 290,509                              |
| IV 利益剰余金中間期末(期末)残高  | 9,184,115                              | 4,814,435                              | 6,060,735                            |

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

| 科目                       | 当中間連結会計期間<br>自2003年4月1日<br>至2003年9月30日 | 前中間連結会計期間<br>自2002年4月1日<br>至2002年9月30日 | 前連結会計年度<br>自2002年4月1日<br>至2003年3月31日 |
|--------------------------|--|--|--------------------------------------|
| I 営業活動によるキャッシュ・フロー       | 2,618,951                              | 1,441,647                              | 3,316,128                            |
| II 投資活動によるキャッシュ・フロー      | △1,218,767                             | △871,516                               | △2,253,217                           |
| III 財務活動によるキャッシュ・フロー     | △323,976                               | △1,471,007                             | △2,454,804                           |
| IV 現金及び現金同等物に係る換算差額      | —                                      | —                                      | —                                    |
| V 現金及び現金同等物の増加・減少(△)額    | 1,076,207                              | △900,876                               | △1,391,893                           |
| VI 現金及び現金同等物の期首残高        | 5,739,061                              | 7,130,955                              | 7,130,955                            |
| VII 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高 | 6,815,269                              | 6,230,078                              | 5,739,061                            |

中間貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

| 科目              | 当中間会計期間末<br>2003年9月30日現在 | 前中間会計期間末<br>2002年9月30日現在 | 前事業年度<br>2003年3月31日現在 |
|-----------------|--------------------------|--------------------------|-----------------------|
| <b>資産の部</b>     |                          |                          |                       |
| I 流動資産          | 15,149,210               | 9,612,469                | 11,342,430            |
| II 固定資産         |                          |                          |                       |
| 1.有形固定資産        | 2,053,181                | 901,328                  | 1,615,318             |
| 2.無形固定資産        | 221,928                  | 134,658                  | 162,105               |
| 3.投資その他の資産      | 4,708,757                | 3,864,633                | 4,190,246             |
| 固定資産合計          | 6,983,867                | 4,900,620                | 5,967,670             |
| 資産合計            | 22,133,078               | 14,513,089               | 17,310,101            |
| <b>負債の部</b>     |                          |                          |                       |
| I 流動負債          | 8,187,251                | 6,448,226                | 6,644,015             |
| II 固定負債         | 1,938,236                | 2,070,708                | 1,622,397             |
| 負債合計            | 10,125,488               | 8,518,934                | 8,266,412             |
| <b>資本の部</b>     |                          |                          |                       |
| I 資本金           | 1,295,500                | 530,500                  | 1,295,500             |
| II 資本剰余金        | 1,342,429                | 415,429                  | 1,342,429             |
| III 利益剰余金       | 9,264,373                | 4,966,852                | 6,351,626             |
| IV その他有価証券評価差額金 | 105,287                  | 81,374                   | 54,133                |
| 資本合計            | 12,007,590               | 5,994,155                | 9,043,688             |
| 負債及び資本合計        | 22,133,078               | 14,513,089               | 17,310,101            |

中間損益計算書(要旨)

(単位:千円)

| 科目             | 当中間会計期間<br>自2003年4月1日<br>至2003年9月30日 | 前中間会計期間<br>自2002年4月1日<br>至2002年9月30日 | 前事業年度<br>自2002年4月1日<br>至2003年3月31日 |
|----------------|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
| I 売上高          | 36,042,952                           | 34,943,400                           | 61,041,212                         |
| II 売上原価        | 25,723,660                           | 26,290,309                           | 45,405,808                         |
| III 販売費及び一般管理費 | 4,226,993                            | 4,006,686                            | 8,398,528                          |
| 営業利益           | 6,092,299                            | 4,646,404                            | 7,236,875                          |
| IV 営業外収益       | 78,298                               | 72,664                               | 128,444                            |
| V 営業外費用        | 8,773                                | 40,195                               | 79,938                             |
| 経常利益           | 6,161,824                            | 4,678,873                            | 7,285,382                          |
| VI 特別利益        | 19,412                               | 69,547                               | 241,803                            |
| VII 特別損失       | 59,422                               | 31,471                               | 112,167                            |
| 税引前中間(当期)純利益   | 6,121,814                            | 4,716,948                            | 7,415,018                          |
| 法人税等           | 2,809,067                            | 2,315,276                            | 3,628,571                          |
| 中間(当期)純利益      | 3,312,747                            | 2,401,672                            | 3,786,446                          |
| 前期繰越利益         | 942,046                              | 555,599                              | 555,599                            |
| 当期末処分利益        | 4,254,793                            | 2,957,272                            | 4,342,046                          |

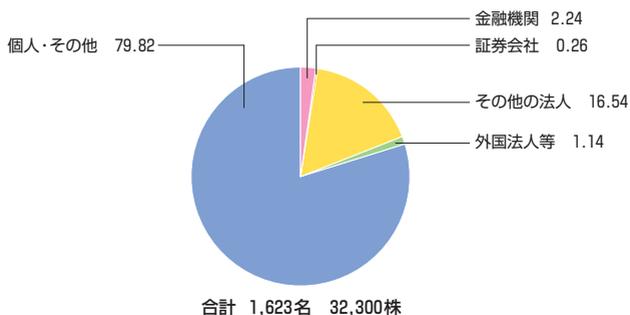
## 株式状況

|              |          |
|--------------|----------|
| 会社が発行する株式の総数 | 117,200株 |
| 発行済株式総数      | 32,300株  |
| 株主数          | 1,623名   |

## 大株主

| 株主名                       | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|---------------------------|--------|---------|
| 山本英俊                      | 12,420 | 38.45   |
| 山本剛史                      | 4,000  | 12.38   |
| 山本洋子                      | 3,500  | 10.83   |
| サミー株式会社                   | 2,750  | 8.51    |
| フィールズ従業員持株会               | 1,858  | 5.75    |
| 有限会社ミント                   | 1,600  | 4.95    |
| 山本優希                      | 500    | 1.54    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 324    | 1.00    |
| 株式会社ガイア                   | 171    | 0.52    |
| 野村信託銀行株式会社(投信口)           | 170    | 0.52    |

## 所有者別分布状況(%)



## 会社概要

|       |  |
|-------|--|
| 商号    | フィールズ株式会社 (英訳名: FIELDS CORPORATION)                          |
| 設立    | 1988年6月(1983年に東洋商事の名で事業を開始)                                  |
| 本店所在地 | 〒170-0062 東京都港区南青山二丁目11番16号                                  |
| 本社所在地 | 〒150-0044 東京都渋谷区円山町3番6号<br>(2003年11月4日日本社移転)<br>E・スペースタワー12階 |

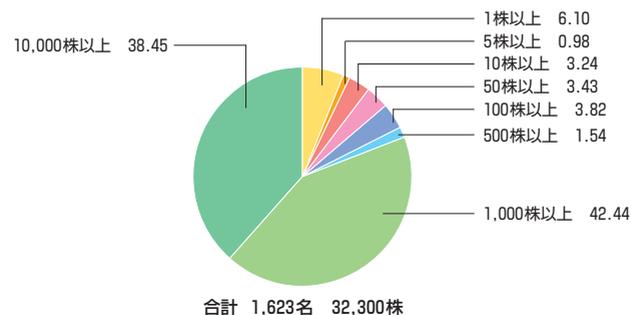
| 役員                   | 氏名    | 氏名 |
|----------------------|-------|----|
| 代表取締役社長              | 山本 英俊 |    |
| 取締役執行役員 セールス本部長      | 北野 重敏 |    |
| 取締役執行役員 アカウンティング統括部長 | 山中 裕之 |    |
| 取締役                  | 糸井 重里 |    |
| 取締役                  | 末永 徹  |    |
| 常勤監査役                | 松下 滋  |    |
| 監査役                  | 小池 敕夫 |    |
| 監査役                  | 古田 善香 |    |

資本金 12億9,550万円

従業員数 567名(連結)

連結対象企業  
 プロフェッショナル・マネージメント株式会社  
 フィールズジュニア株式会社  
 ホワイトトラッシュチャームズジャパン株式会社  
 トータル・ワークアウト株式会社

## 所有株数別分布状況(%)



※パーセント表示は調整しております。

## 株主メモ

---

|         |   |
|---------|---|
| 決算期     | 3月31日   |
| 定時株主総会  | 毎決算期の翌日から3ヶ月以内  |
| 基準日     | 3月31日(そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします)  |
| 中間配当基準日 | 9月30日(取締役会の決議により中間配当を実施する場合)  |
| 株券の種類   | 1株券、10株券および100株券の3種類  |
| 株式の名義書換 | 名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号<br>UFJ信託銀行株式会社<br>同事務取扱所 東京都江東区東砂七丁目10番11号<br>UFJ信託銀行株式会社 証券代行部<br>同取次所 UFJ信託銀行株式会社 全国各支店           |
| 公告掲載新聞名 | 日本経済新聞<br>当社は決算公告に代えて、貸借対照表ならびに損益計算書を当社のホームページ<br>( <a href="http://www.fields.biz/">http://www.fields.biz/</a> )に掲載いたしております。 |

---

## フィールズ株式会社

〒150-0044 東京都渋谷区円山町3番6号 E・スペースタワー12階  
ホームページアドレス <http://www.fields.biz/>

お問い合わせ先 [ir@fields.biz](mailto:ir@fields.biz)